

## James Welling

ジェームズ・ウェリング

### Notes on Color



0696, 2006, Inkjet print on Museo Silver Rag paper  
61x43.8cm, Unique

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、2月5日(木)より、当画廊におきましてロサンゼルスを拠点に活躍しているジェームズ・ウェリングの新作展を開催する運びとなりました。3年振り6度目となる今展では、モダニズム建築を撮影した「Glass House(ガラスの家)」やコンピューターグラフィックを用いた「Quadrilaterals(四角形)」ほか、フォトグラムの最新シリーズを展示致します。

ウェリングはこれまで、アルミホイルやベルベットを用いた抽象的な写真、日常的断片を写したモノクロ写真、光のグラデーションで見せるフォトグラムなど、30年以上に渡り実に多様な作品を発表してきました。アナログかデジタルか、カメラを使用するかしないかということよりも、光、影、時間をコントロールすることに重点を置き、写真史を踏襲しながら、写真表現に対する実験的なアプローチを続けています。

“Glass House”では、出身地コネチカットにおよそ60年前に建てられたフィリップ・ジョンソン邸を撮影。カラーフィルターによる鮮やかな色彩やレンズフレアで強調された陽光が、一時的にフィルムに定着され、建築史上に残る邸宅の新たな表情を浮かび上がらせています。またグラフィックソフト(MAYA)を初めて用いた“Quadrilaterals”では、スキヤニングした90種のボール紙をランダムに再構築し、画面上で陰影を加え、繊細な立体感を作り出しています。いずれのシリーズも、これまでの自身の作品に回帰、相関しており、幾重にも交差する光や時間が鑑賞者の意識を被写体そのものから、その背後に存在する不可視なものへと導きます。

「どんな写真にも常に具象的な要素と抽象的な要素は存在している」とウェリングは語り、作風を次々と変化させながら、「写真とは何か」を問い続け、光で描くということの可能性を一貫して追求しています。

#### James Welling (1951-)

アメリカ・コネチカット州ハートフォード生まれ。カーネギーメロン大学、カリフォルニア大学で美術を学ぶ。95年よりUCLAにて教鞭をとりながら、国内外で作品を発表している。2000年には、ロサンゼルス現代美術館を含む3会場にて回顧展を開催。2002年には、ベルギー・ブリュッセル、カナダ・トロントにて2度目の回顧展も行われた。近年では、ホイットニー・バイエニアル(2008)をはじめ数多くのグループ展に参加、またDavid Zwirner(NY)、Maureen Paley(ロンドン)など欧米を中心に積極的に個展を開催している。作品はニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館、ホイットニー美術館などに収蔵されている。

会場：ワコウ・ワークス・オブ・アート

住所：新宿区西新宿3-18-2-101

T:03-3373-2860 F:03-3373-2812 M:info@wako-art.jp

(新宿駅南口より徒歩15分、京王新線初台駅東口より徒歩5分)

会期：2009年2月5日(木)～2009年3月14日(土)

11:00～19:00 日・月・祝休み

つきましては、ご多忙中恐縮ではありますが、貴誌情報欄等で情報掲載をお願いできれば大変幸いです。画像の貸し出し等ございましたら、ご連絡くださいませ。なお展覧会もご高覧頂きたく、合わせてご案内申し上げます。

敬具

ワコウ・ワークス・オブ・アート 深作